

リレーコラム 25

キャリアの積み方—私の場合

夢に向かって

聖マリアンナ医科大学 小児科

長江千愛

息子を出産するまではとにかく仕事に夢中でした。その際に、長期の入院生活を余儀なくされたのち命をおとす子ども達がいる現実を目の当たりにし、入院中の子ども達が少しでも笑顔につつまれるよう、少しでも子どもらしい生活を送ることができるように何かできることはないかと考えはじめました。2012年志を同じくする同士（主人も含む）数名とともに、動物介在療法の導入を夢見て、勤務犬導入検討委員会を立ち上げ、日本盲導犬協会や日本介助犬協会の協力を得て53回の動物介在活動を行い、講演会や2,037名の署名も集めました。適性のある犬の確保、ハンドラーの育成、資金面、安全性、犬嫌いや犬アレルギーへの対応など、課題は山積みであり、はたして犬が抵抗なく病院内を歩くことができる日が本当にくるのだろうか、大きな疑問が皆の心にありました。でも、当院の理念である「愛ある医療を提供すること」をスローガンとして、決して諦めませんでした。その結果、2015年春、多くの人々に助けられ、約3年の時間をかけて、やっと夢は実現し、大学病院での動物介在療法の導入を実現することができたのです。

つい先日のことです。常に「大丈夫」と笑顔で答えていた15歳の白血病の男児が、犬を抱きしめ、泣きながら「本当はとってもつらい、どうして僕なのか、どうして僕だけこんなにつらい思いをしなければならないのか、家族にも迷惑をかけているし、僕なんていないほうがいいのか・・・」と訴えました。普段穏やかな患児からは想像もできなかった様子に驚き、胸がしめつけられるような気持ちになりました。非言語的な犬との触れ合いが、患者の気持ちの解放にこれだけの効果があるとは思いませんでした。今後も子どもの病気のみならず、心の成長も一緒に見守っていきたいと思っています。

現在、私が所属する小児科の医局員の1/3は女性で、その半数以上が子育て中です。出産後、みんな1年間の育児休暇を経て、時短枠で仕事に復帰しています。私が入局した当時は子育てをしながら働いている女医の先輩はおいませんでした。男女共同参画、女性のキャリア支援の時代の流れ、優しく理解のある多くの医局員の先生に恵まれ、努力をすれば、子育てと医師の仕事の両立が可能な時代になりました。ただし、子育てをしながら働く女医として、積極的にできる仕事を探し責任をもって行うこと、患者の治療が最優先であるため同じチームの先生とのコミュニケーションを大切に申し送りを欠かさないと、医局員や大学教員としての仕事も確実にこなすことなど、自分には常に厳しくなければいけないと思っています。一方で、子どもという時は仕事のことは忘れ、一生懸命に子どもと向きあい、一生懸命に子どもと遊ぶこと。そのため、学会の準備や論文作成などの仕事は子どもが寝付いてから、あるいは早朝に行います。疲れた時には、大学病院に勤務している意味を自分に問いかけます。特に専門分野の疾患に対する探究心を常に忘れず、しっかりとした目標設定を行い、研究、学会発表、論文作成なども努力

しなければならぬと思います。また、働くママの子どもが悲しい思いをしないよう、子どもを守ることができる仕事の環境を作ること、小児科医としての大切な使命であると考えています。今後も、楽しく、笑顔で、心から尊敬できる周囲の先生方や家族など、支えてくれているみんなに感謝しながら頑張っていきたいと思っています。

ながえちあい
長江千愛

平成 11 年 聖マリアンナ医科大学卒業 聖マリアンナ医科大学病院 研修医
平成 13 年 聖マリアンナ医科大学病院 小児科 病院助手
平成 16 年 聖マリアンナ医科大学病院 小児科 助教
平成 18 年 小児外科医の主人と結婚
平成 21 年 男児を出産
平成 22 年 静岡県立こども病院に国内留学
平成 23 年 聖マリアンナ医科大学病院 小児科 助教

《専門領域》

小児科、血液凝固、血友病

《専門医資格》

日本小児科学会専門医、日本血液学会専門医、がん治療認定 医、日本小児血液・がん学会小児血液・がん暫定指導医

《学会での役職・委員会活動等》

日本産婦人科・新生児血液学会評議員 日本小児血液・がん学会評議員 日本小児血液・がん学会 止血・血栓委員会委員 日本血栓止血学会 血友病部会員 日本小児血液・がん学会 学術集会プログラム委員会委員

男女共同参画推進委員会より

「働き方改革」

子育てをしながら働く女医さんのサポート体制を整えるなかで、そのサポート体制が維持されるような制度が重要になってきています。つまり、男女共同参画という言葉だけでは表せない、性別を問わずに勤務医全体の労働状況の見直しと改善が必要とされます。

「働き方改革」という言葉が流行語大賞の候補に挙がったのは 2017 年です。そこから 2 年たった今年、厚生労働省の「医師の働き方改革に関する検討会」において、2 階建てで医師の時間外労働の上限を設定することで話がすすんでいるようです。

お互いにワークシェアをしながら、すべてのスタッフが安心して働ける環境を得られるように、当委員会でも議論を続けたいと考えています。
